

彦根城が世界遺産の事前評価へ!!

ユネスコ「事前評価制度」とは

世界遺産に登録されるためには、その資産が世界遺産として相応しい価値を持っているのか、保存のための体制は整っているのか、厳しい審査を受けなくてはなりません。

事前評価制度は令和5年(2023年)から始まった(推奨・2027年度推薦分から義務化)制度で、推薦書の提出に先だち、相応しいOUV(顕著な普遍的価値・Outstanding Universal Value※)が備わっているかなど、事前に審査機関であるイコモスからの公式なアドバイスを受けることを目的としています。

彦根城も、暫定一覧表への記載から長く時間を経たことから、事前評価によって、改めてアドバイスを受けることになりました。

※国家間の境界を超越し、人類全体にとって現代及び将来世代に共通した重要性を有するような、傑出した文化的な意義又は自然的な価値。



世界遺産への道

- ・「世界遺産暫定リスト」に記載…………… 1992年
～姫路城との差別化の検討・独自のOUVの模索～
- ・ユネスコに事前評価申請書提出…………… 2023年9月
- ・事前評価の結果の伝達…………… 2024年10月
～事前評価を反映した推薦書素案の作成～
- ・国内で世界遺産として推薦…………… 2025年
- ・ユネスコに推薦書を提出…………… 2026年2月
(イコモスに諮問され、イコモスの審査が開始)
- ・イコモスによる現地調査…………… 2026年夏頃
- ・イコモスからの答申の発表…………… 2027年5月頃
- ・ユネスコ世界遺産委員会にて登録決定…………… 2027年7月頃

今後の最短スケジュール



HIKONE CASTLE 彦根城が世界遺産の事前評価へ!!

世界遺産登録へと大きく歩み進む彦根城。みんなの力で【世界の彦根城】を実現しよう!

世界遺産登録までの詳細はスペシャルサイトへ▶ www.hikonejo-worldheritage.jp

彦根城を世界遺産に 🔍



編集・発行 彦根城世界遺産登録推進協議会(滋賀県・彦根市)

[事務局]滋賀県文化スポーツ部 文化財保護課 彦根城世界遺産登録推進室 〒520-8577 大津市京町四丁目1-1

TEL. 077-528-4682 MAIL. hikonejo@pref.shiga.lg.jp

彦根城の価値

17世紀からの250年間にわたって、安定した社会秩序を形成・維持した江戸時代の大名による政治の仕組みを象徴的に伝える「城」のうち、最も残りが良いもの

日本の江戸時代は「パクス・トクガワーナ(徳川の平和)」と呼ばれる、世界でも注目される、長く安定した時代です。これは将軍ではなく、大名が地方の政治の責任を負う方法によって実現しました。この独特な政治体制の拠点として、安定した社会を維持するうえでなくてはならない役割を果たしていたのが「城」だったのです。



内部における機能と集約性

POINT 01

区画された内部に大名政治に参加する全ての重臣と必要な施設を集約し、秩序ある配置によって一体感を形成し、公平な意思決定のための体制と機能性を実現。



城の5つの物証にあらわれる江戸時代の政治の特徴

① 二重の堀と石垣

城を厳重に囲い、威厳をもって外部との差異を明示する。

彦根城では…江戸時代の絵図の堀と現在の航空写真の堀とがびったり重なるほど、同じものが残っています。



② 天守

唯一で正当な権力がここにあることを象徴。威厳のある姿が遠くからでもよく見える。

彦根城では…飾り金具や飾り屋根が発達し、一目見れば彦根城と分かる優美な姿です。



③ 御殿

城の中の最重要施設で、大名の居所であるとともに、重臣たちの合議や儀礼を行う。

彦根城では…御殿のあった場所に、地下遺構を保護のうえ、同じ形状で博物館として復元されており、井伊家による政治の記録やお殿様の宝物を見ることができます。彦根藩の政治はこの場所で決まりました。



④ 重臣屋敷

重臣の屋敷が秩序正しく配置され、それぞれの役割に応じて政治を補完。

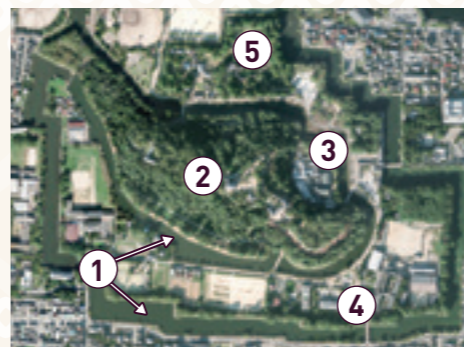
彦根城では…約30人の重臣が藩の統治に携わり、屋敷を与えられました。国内でも最大級の長屋門が、重臣の力を表しています。



⑤ 大名庭園

理想とする美しい景色の中で、儀礼や文化活動を通じて大名と重臣が教養を高め、価値観を共有。

彦根城では…当時のまま残る名勝の庭から、ホンモノの天守を見上げることができる、全国唯一の大名庭園です。



江戸時代とは？

— 大名が築いた安定の時代 —

江戸時代の政治の仕組みは、17世紀～19世紀に世界各地で生み出された多様な政治のあり方の一つです。この特徴は、大名と城の関係によってみることができます。これは世界でも類を見ない形でした。

将軍は大名に領地を任せ、権限や財源を認めることで、大名に責任を持って地方の政治を行うように求めました。そして、その場として一つの城を預けました。

政治の権限と財源をもって城を預かった大名は、重臣を城内に集め、一体となった政府として、合議による政治を行いました。



POINT 02

外部からの象徴性と隔絶性

大名による唯一で公正な権力の存在を威厳をもって可視化し、象徴するとともに、地域との物理的な隔絶によって、個別的な利害関係が形成されないように徹底。



この基本的な特徴は、全国約180の城で共通していました。しかし、明治以降の廃城やその後の戦災等により

5つの物証を備え、江戸時代の政治の仕組みを体感できる「城」は今や彦根城が唯一となりました。